

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1059 号	氏名	Clara Alejandra Vasquez Velasquez
学位審査委員	主査	吉浦孝一郎	
	副査	安田 二郎	
	副査	長谷部 太	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 デング熱のなかで、重症のデング出血熱 (DHF)、さらに重症のデングショック症候群 (DSS) の発症に際し、<i>chymase</i> 遺伝子 (<i>CMA1</i>) や <i>tryptase</i> 遺伝子 (<i>TPSAB1</i>) の多型が関連しているか否かを検討したもので、目的は妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ベトナムのホーチミン市で収集した 594 名 (健常 448 名、DHF/DSS 146 名)、ベトナムのヴィンロン省で収集した 731 名 (健常 513 名、DHF/DSS 218 名)、フィリピンのマニラ首都圏で収集した 423 名 (健常 268 名、DHF/DSS 155 名) を対象として、遺伝子多型頻度と重症デング熱の発症との相関解析を実施しており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 <i>TPSAB1</i> の α アレルホモ接合型は、ベトナムおよびフィリピンの DSS 発症に関連し (ベトナム : OR=3.52 (p 値<0.0001)、フィリピン : OR=3.37 (p 値<0.0001))、ホーチミン市での DHF 発症に関連 (OR=2.54 (p 値=0.0084)) していた。DHF と DSS をまとめて扱った場合でも、ベトナム (OR=1.5 (p 値=0.034)) およびフィリピン (OR=2.36 (p 値=0.0004)) において関連が認められた。デングウイルス感染症重症化とマスト細胞活性化機構との生物学的な関係に考察を加えており、解析法・考察ともに妥当である。</p>			
<p>以上のように本論文はデングウイルス感染症研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			